

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4773500030		
法人名	社会福祉法人 憲章会		
事業所名	東雲の丘指定認知症対応型共同生活介護事業所(1号館)		
所在地	南城市大里字大城1392番地		
自己評価作成日	令和4年10月5日	評価結果市町村受理日	令和5年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4773500030-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和4年 11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣接するグループホーム2号館、併設の小規模多機能事業所が密接に連携し、入居者様一人ひとりに合った個別ケアを目標とし柔軟に対応しています。また、趣味活動(音楽・水彩画・陶芸・くもん学習療法)を活かし、その人らしく毎日を過ごしていただけるよう日常生活支援にも取り組んでいます。敷地内が広く施設内散歩も楽しむことができます。認知症高齢者が、重度化しても慣れ親しんだ地域の中で、最後まで安心して暮らすことができるように家庭的な雰囲気を出し支援しています。協力医療機関の医師、併設の特養看護師、訪問看護ステーションと医療連携し健康管理しています。ご家族の「最期の棲家」と望む声にも対応し、法人の多職種間も力を合わせて支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな環境を活かし、広い敷地の中に特別養護老人ホームを核とした大規模社会福祉法人であり、GHの他に通所介護サービス、有料老人ホーム等の他、施設内保育園も設置され福利厚生を整備に努めている。
GHの入居者は、法人内の他施設からの入居者もいることから、入居前の本人情報を共有し継続的な支援にあたる事ができている。併設の特養看護師、訪問看護ステーションと医療連携し健康管理ができていて、法人の多職種間の協力も合わせて支援に取り組んでいる。利用者の外出支援の一環で併設事業所内にある売店への買い物、散歩による外気浴が行えており、広い敷地を活かした事業所間の行き来や十分な距離のある外周を有効に活用して利用者の気分転換、生活の一部の習慣として取り入れている。敷地周辺は景観を遮る建築物もなく見上げると一面広がる青空を望むことができる環境で利用者はメリハリのある気分転換を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり、深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念をフロアと事務所に掲示し、各自出勤時に目を通すことを心がけ、月1回の職員ミーティングで唱和を行い、全職員で共有している。	法人は特養をはじめとした多機能の介護サービスを提供している事業所であり、法人グループの管理者会議(介護サポート会議)を毎月初旬、午前中に行い、その日の午後にGHの職員ミーティングを行い理念の確認や諸般の情報共有を行い運営に反映している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は自治会に加入している。コロナ禍状況が落ち着き次第、地域の伝統行事や、催し物への参加再開を考えています。また、地域の方がグループホームへの来訪の声掛けも行っています。	コロナ禍の現状では活動は困難な状態にあるが、地元の宮里地区との関係は密であり、コロナ禍前に参加していた「大城綱引き」や「ハーリー」等の再開を目指し準備を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議(文書報告)の中で、認知症に対する理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている。地域に当グループホームの認知症に対する知識・技術を還元している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議(文書報告)で、それぞれの立場から意見や要望・アドバイス等を書面でいただき、支援方法や研修への取り組みに活かしている。	運営推進会議は2か月に1回開催しているが、コロナ禍のため書面開催となっている。議事録は構成委員に送付して議事内容の確認と意見伺いのFAX用紙を添付している。頂いた意見は次回の運営推進会議でその対応や処理について報告がされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市とは必要時連絡を常に取りあい、地域包括支援センターとは運営推進会議、新規入所者依頼等日頃から連携を密にしている。今年度から地域包括支援センター西区が法人内に設置され、直接出向いっていき担当者と話しするなど、良好な関係を築いている。	コロナ禍の中ではあるが、運営推進会議議事録を送付し行政からの意見の吸い上げや、法人内にある包括支援センターとの連携により行政との関係を保持しながら事業所の運営に反映している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な研修と事業所内ケア会議の中で、身体的な拘束でなく言葉や薬などでも拘束にあたることを話し合っている。身体拘束廃止チェックシートで不適切なケアはないか確認している。定期的な身体拘束適正委員会を実施し、不適切ケア・身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会は法人本部で2か月に1回開催され参加している。研修会も年2回実施されている。 日頃気づいたことについては、身体拘束廃止チェックシートに記載して、管理者に報告するとともに日々のミーティングや月例ミーティングの場で取り上げて事業所の運営に反映している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のケア会議で、スピーチロックや虐待にあたる行為がないか確認している。「高齢者虐待防止」の法人内での研修があり積極的に参加している。不適切ケア、虐待防止チェックシートを基に現場での状況を把握、場合によっては面談を行い虐待に繋がる前の段階での対応を行っている。	法人全体で行う定期的な虐待防止研修会に参加して、その防止に努めると共に日々の気づきを「虐待防止シート」に記入し、職員間での情報共有に努めている。管理者は日頃からスピーチロックなどの虐待行為がないか職員を見守っていて、問題が散見された場合は都度注意を行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1名の入居者様が成年後見制度を利用されています。法人内で権利擁護に関する研修に積極的に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時にご家族と重要事項説書・契約書の読み合わせを行い、不明等の確認を理解・納得をしていただいた上で契約を交わしている。改定などの説明、疑問を抱かれていますご家族へは、個別に説明して理解をしていただいた上で同意を得るようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、ご家族が気兼ねなく意見や要望を言える良好な関係づくりに努めている。面会時や運営推進会議等で要望や意見等を聞き話し合っている。投書箱も設置している。コロナ禍状況落ち着き次第、家族との意見交換会の再開を考えています。	コロナ感染防止のため、家族の訪問が制限されており関係が希薄となっているがコロナ後を見据え、いつでも再開できる準備を行っている。 2か月に1回の病院への定期受信の際を利用して家族との交流を途絶えないように努めている。	コロナ禍で家族との関係が希薄である中でも、家族からの意見の吸い上げは事業所の運営にとって最も重要なことであることから、家族向けに「満足度アンケート」を行うなど、事業所側から積極的な働きかけに期待したい。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、毎月、法人全体の介護サポート会議に参加し、職員ミーティングを開催し職員から直接意見が聞けるようにしている。また、代表者が定期的に事業所を訪問し、職員の声・意見を聞き事業所の運営、職員の待遇改善を行っている。	職員に関する人事考課は、事業所が指定するシートで申告し、職員→管理者→法人本部に送られ、評価を行う仕組みができています。管理者は、日々職員とのコミュニケーションを円滑にすることを心掛け、必要な都度声かけに努め、問題点や改善点の意見については、月例職員ミーティングでも情報共有を行って運営に反映している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や能力に合わせ資格習得の支援やキャリアパスでの昇進ができるよう支援している。個人の知識や能力を給与に反映できるようにしている。	職員のスキルアップにおいては、法人自身が行っている「介護実務者研修」に誘い、キャリアパスの形成に努めていて、資格取得を人事考課に反映する仕組みができています。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格習得の為に各々にあった勉強会など参加できるように勤務の調整等も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の地域密着運営推進会議や、沖縄県グループホーム連絡会議に参加し交流を通して質の向上につなげている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申し込み相談があった場合には、施設を見学していただき、相談しやすい雰囲気であることを知ってもらい、ご本人の状態を確認するために実態調査を行い職員と確認しあっている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今現在の状況を聞き取りし、何に困っているかを把握する。また、思いを聞き相談しやすい雰囲気づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者によっては法人全体の連携体制があり、他事業所の紹介、その後の確認等を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や下膳、テーブル拭き等、ひとり一人の身体能力に合わせてコミュニケーションを図り、生活リズムに寄り添って信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段と様子が変わった場合はご家族へ電話連絡を行い面会や受診等の協力体制がある。コロナ収束後は、家族会を再会し、季節のイベントには一緒に参加していただけるような取り組みを行っていきたい。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も馴染みの人との関係が途切れないよう、ご家族の協力も得ながら、気軽に訪問していただけるよう働きかけている。今年もコロナ禍状況により、電話でお話をいただき関係が途切れないよう支援している。	管理者は地元の地区出身者であり、住居も構えていることから、馴染みの人との交流の継続に努めている。コロナ後を睨み関係継続が途絶えることの無いように日頃から地元の人達との関係継続に努めている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事、おやつ時はリビングで過ごす方が多く、お互いにテレビの話題や、出身地域の話など雑談等でコミュニケーションをとっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や併設の特養施設入所後も「何かあれば相談してください」と相手施設やご家族へ伝えている。入院加療のため一時退所された方の病院面会もしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で常に気づきを大切に、一人ひとりの生活の様子や暮らし方について、希望や意向を生活リズムシートに反映し把握するよう努めている。意思表示の困難の方には、ご家族からの希望、意向を確認し、ご本人へ声掛けし表情等でくみ取り支援に繋げている。	入居者の情報は「生活リズムシート」に整理してまとめ、職員間で情報共有がされており、ケアプランに反映している。 グループ内の施設からの入居者もいることから、入居前施設からの情報を受け継ぎ、本人の意向を反映したきめ細かいケアプランの作成に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の事前訪問等で生活歴の情報収集を行い、入所後の生活の中でも暮らしてきた生活環境の把握に努めている。また、ご家族から情報収集にも努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活リズムを把握し、できること、できない事を職員同士で共有し、安心して生活を送ってもらうように努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の要望や職員からの報告など、日々の記録を確認しながら目標を立てるようにしている。日頃のケアに関することやアイデアを申し送り帳を用いて職員間で情報共有している。状態に変化があれば随時話し合いを行っている。	6か月に一回のモニタリングとカンファレンスを行い、職員の気づきや観察を介護計画に反映できるように努めている。 管理者は、日頃から業務日誌から必要な情報を申し送り帳に記して、職員間の情報共有に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の変化や職員の気づきを記録し、情報を共有するようにしている。勤務始動前には入居者の状態を把握するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	福祉車両の貸し出しや通院時送迎の対応、受診の対応、ご家族の宿泊希望時の対応等柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設の特養施設へ趣味活動(音楽・陶芸・水彩画)参加や地域交流会への参加。近隣のコンビニへ買い物支援している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に確認を行い継続的なかかりつけ医と協力体制をとっている。また、訪問診療も利用しており、ご本人・ご家族の希望により適切な医療を受けられるように支援している。	利用者の多くがかかりつけ医を継続している。診察内容について必要時には書面・口頭で情報提供に努めている。訪問診療は3名が利用している。併設の特養看護師が週一回入りかかりつけ医、訪問診療との医療連携を整えて利用者の健康管理を行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと医療連携し、併設特養の看護師と入居時の情報を共有しアドバイスをもらっている。また、ご家族へ、ご本人の状態などを報告し相談しながら受診等を検討している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院面会を行い容態を確認しながらご家族、看護師、病院、相談員と共に話し合い長期入院にならないように体制づくりしている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、ご家族の意向を聞き取りしている。また、ご本人に終末期が近づいた時には、ご家族、主治医、各関係者や職員としっかりと話し合い事業所で行えることを十分な説明を行いながら方針を共有し、各関係者とチームで支援に取り組んでいる。	重度化対応指針や看取り対応の指針を整備して家族に説明して、意向の聞き取りを行っている。訪問診療と併設の特養看護師と連携し利用者の状態把握、家族と情報の共有に努めている。必要書類、手続きを整えて看取り加算取得に向けて取り組んでいる	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新規職員研修で訓練を行っている。まだ経験の浅い職員には、随時、口頭で指示するなどの対応を行い、全職員に実践力が身につくよう職員間で声かけあっている。事故発生時、特に夜間帯は、宿直担当、他ユニット、併設の小規模多機能施設職員との連携で対応するようにしている。	新規職員を含め全職員対象の研修計画の中に緊急時や事故発生時の訓練を行っている。ヒヤリハットの事案を報告することによって重大事故防止の意思統一を行い、運営推進会議などで事故報告を実施、外部からの意見を取り入れ再発防止に努めている。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	年2回の避難訓練を実施している。 感染対策に、面会制限・手指消毒・マスク着用・検温・定期的な換気・ワクチン接種を実施している。感染症に関する(BCP)指針を整備し、法人全体でまん延防止対策会議を開催し参加している。また、ラインワークスを導入し、法人全体で情報の共有を行い、感染症の予防やまん延防止に速やかな対策に繋げている。	併設の事業所と合同で年2回、昼夜想定訓練を実施している。敷地内に複数の事業所が存在するため相互の協力体制を含め確認事項を押さえ、消防署からのアドバイスを積極的に受け、不十分な点をチェックし、改善内容の共有に努めている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の個性や生活習慣に配慮した言葉遣いや対応を行っている。入室時には必ずノックすることを徹底し、排泄への声かけは耳元でさりげなく行い、汚物処理はトートバッグに入れて悟れない工夫をしている。	プライバシーへの具体的な配慮として他者の目に触れることが無いよう利用者一人一人専用のトートバックを用意、バッグに入れて持ち運ぶことをルール化している。また言葉使いで利用者を不快にさせないよう職員同士で適切な声かけに留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の嗜好や入浴、着替えの衣服選び等、日常的に意思決定できるような声掛けを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、食事時間など個々のリズムに合わせてながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員は入居者の好みを把握し季節感にあった衣服選びができるように確認しながら支援している。理美容室の利用も行っている。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みや体調・状態に合わせて調理法や形態を変えたりしている。入居者と職員が同じものを食べる家庭的な食事のあり方を大切にしている。行事には、特別な料理を提供し、誕生日には、追加メニューも提供している。もやしの根取りや食器洗い、台拭きなどを一緒に行っている。	生活の営みの一環として野菜のしたごしらえ、食器洗い、テーブル拭きなど主体的な関わりを希望する利用者と一緒にしている。食の嗜好については入居時に聞き取りを行い把握に努め、日々の関わりの中で体調や状態に合わせて変更・対応している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	マイコップやマイ食器等で食べる量や水分量がわかるようにしている。水分摂取促進が必要な方は、黒糖湯などの工夫で水分摂取確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の洗浄の声掛けを行っている。自力洗浄、一部介助など見極めながら声かけ促しをしている。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の生活習慣や排泄パターンを把握して、声掛けや誘導を行い失敗の少ないトイレでの排泄支援に取り組んでいる。オムツ使用の方は夜間帯の睡眠を妨げないようにパットの種類を考慮している。	個別の排泄チェックシートに排泄状況を記録して時間帯、間隔を把握し一人一人に合わせて声かけ、見守りの支援を行っている。利用者の意向に沿って尿取りパットを使い分けて対応、日中に排泄自立している方は8人、声かけが必要な方は1人、夜間は3人となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取が少ない方には黒糖湯など甘みを付け多めにとれるように工夫している。食物繊維や主食を好みに合わせて芋等に替えて提供している。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本週3回としているが、毎日入浴、時間帯の調整に応じて対応している。入浴支援は入居者の意向に沿い同性介助している。座位が保てない方はストレッチャー入浴し、二人対応で安全な入浴支援に繋げている。職員と会話しながら楽しい入浴ができるように取り組んでいる。	週3回の入浴を原則としている。利用者個々の清潔に対する習慣、体調や意向に合わせて回数、入る時間帯に都度対応している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これまでの生活習慣、就寝時間、照明等を考慮して安眠に繋げるように支援している。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとり一人の疾患名やどのような症状に留意すべきか薬情報を確認している。与薬時は、名前の確認と朝、昼、夕、の確認を行い誤薬がないように努めている。服薬チェックは毎回している。服薬介助した職員が必ずチェックしている。	併設の特養看護師との連携の元、服薬管理の徹底に努めている。準備、服薬方法、服薬後まで複数の職員による確認と把握の手順を遵守し安全な服薬支援に留意した結果、誤薬事故ゼロを継続している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや野菜のつくろいなど個々の持っている能力に合わせて役割分担を行っている		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍状況により人混みへの外出は控えているが、庭に出て外気浴や散歩、併設の特養施設にある売店へ買い物に出かけて気分転換を図っている。	人混みの予想される場所や行事への外出は控えている。敷地内にある併設の事業所に売店までの買い物のための散歩、敷地内の外気浴をしている。敷地周辺は景観を遮る建築物もなく見上げると一面広がる青空を望むことができる環境で利用者はメリハリのある気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを持っている入居者には売店など自ら支払ってもらうようにしている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自ら電話で話したい要望があれば、施設の電話が利用できるように支援している。また、直通の電話番号をご家族へ伝えているので何時でも取り次ぎができるようにしている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは観葉植物やグッピーのミニ水槽、季節に合わせた飾りつけをしている。また、月日や曜日が分かり易いように、日めくりカレンダーを掛けて生活感や季節感を採り入れている。ゆったりくつろげるソファや、ミニイベント等に舞台として利用できるように畳間の台を設置している。普段は腰かけて、洗濯物たたみ作業等をおこなっている。	季節感を味わえるような飾りつけ、観葉植物、鑑賞用の水槽の設置といったくつろげる空間づくりに努めている。共有スペースに畳間があり、利用者が気分によって利用できる配慮がなされている。場合によっては洗濯物をたたむ整理整頓の場所として生活の一部として利用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングはソファ等を利用し、くつろぎのスペースの空間を作っており、好きな場所で落ち着くことができるよう配慮している。隣接するグループホーム2号館・併設の小規模多機能への訪問も自由にし、地域密着型事業所の交流も行っている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使い慣れた家具や寝具、家族の写真等を持ち込んでもらいご家族と相談しながらその人らしい部屋づくりを心がけ安心して過ごせるよう支援している。入居者の状態によっては、部屋替えをお願いする等にして、安心、安全に過ごしてもらえるよう支援している。	利用者一人一人の部屋入口にカレンダーがあり、生活の一部として活用されている。居室内には備え付けのダンス、ベッド以外に持ち込みのミニ冷蔵庫、鏡台が確認される。また個別に新聞を購読されている方もいるなど生活感を感じさせる落ち着いた空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お風呂やトイレの表示はわかりやすく入居者目線で表示している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10 (7)	コロナ禍で家族との関係が希薄である中でも、家族からの意見の吸い上げは事業所の運営にとって最も重要なことであることから、家族向けに「満足度アンケート」を行うなど、事業所側から積極的な働きかけが必要。	ご入居者やご家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させる。	ご家族向けに「満足度アンケート調査」を実施し、現時点で感じいただいている充足度と、さらに改善に向けて取り組んでいくべき課題を明確に整理し、ご入居者に対する提供サービスの質の向上を図る。	3ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。